コラム　No.2

「小野朝臣(道風)遺跡之碑」の謎

道風公園には多くの石碑が建てられていますが、なかでも最も古い石碑が、文化 12 年(1815)に建てられた尾張藩の儒学者である**秦鼎**（1761～1831）撰文の**「小野朝臣(道風)遺跡之碑」**であることは皆さんご存じですが、その裏に碑隠が書かれているのはあまり知られていません。

遺跡碑拓本

「小野朝臣(道風)遺跡之碑」
（宅跡の碑）　現在の設置場所、新小野社の向かって右側にある。

小野社の北側(正面向かって右側)に建てられている「小野朝臣(道風)遺跡之碑」には、「道風がここで生まれたということを、松河戸の住民は皆が言い伝えている。しかし、確かな証拠が無いのは残念である。百年、千年後でも良いから、誰かこのことを明らかにしてほしい。」という内容が刻されています。

この碑が、この地にとってとりわけ重要性をもつのは、尾張藩校明倫堂の教授で儒学者であった秦鼎の撰文によるものであったからです。

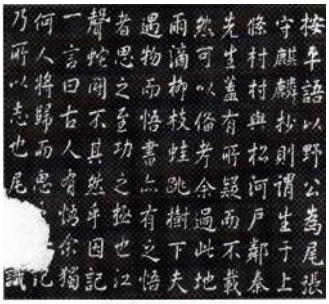
享保年間の国文学者である天野信景の「塩尻」が道風生誕松河戸説を唱えていたことと、尾張藩随一の儒学者松平君山の「張州府志」の松河戸説がこの碑文の根拠となっていることです。

秦鼎は文化 2 年(1815)、55 歳の時、その説を碑文に託し撰文したものです。

この碑が建てられることによって、以降、道風生誕松河戸説はこの地に定着し、通説かしていくこととなりました。

そして、大正 4 年(1915) には、愛知県より「小野道風公誕生地」 の石碑が建てられ、昭和 29 年 3 月愛知県指定文化財史跡第 1 号に指定された事は、多くの人が知っていますが、この「道風遺跡碑」の裏には、碑隠が書かれていることはあまり知られていません。

尾藤広居(1762～1733)が書いたもので、尾藤は名古屋の人で、書は草書を得意とし、秦とは互いに面識があり、碑の建立を聞いて観にきた折りに記したものと思われています。


小野朝臣遺跡碑　碑陰

※　碑隠には、現代語訳にすると、「考えるに一般的にいって野公は尾張の守で麒麟抄には上条村で生まれたと記しています。上条村と松河戸は隣接し、秦先生は麒麟抄の出生記事について疑われたのでこの碑には記しませんでした。そのことを付け加えておきます。私がこの地を去るに際して道風公がかって雨が柳の枝に滴り蛙が樹に跳んでいる姿を見て書を書くことを悟りました。その悟りによって書を書くことに意欲がアップし努力の甲斐がありました。中国清代の江声が蛇闘したのと似ています。そこで一言すれば「故人は悟ったのです」何人かが帰ってから自分自身この道風公の悟りを思いめぐらして石に刻みました。それは志があったからです。尾藤が書きました。」とあります。　（現代語 訳小野道風の風景　川地清）

伝承では「父の小野葛絃(近江の国和邇郡小野の出)が何らかの理由で松河戸に滞在していたとき、里人の娘との間に生まれたのが道風だった。

幼少時代を松河戸で過ごし、10 歳ころに父とともに京に上り、書で身を立てた。」ということになっていますが、史実とは断定できず、伝承の域を出ないことです。

しかし、少なくとも江戸時代中期ころから松河戸の人々は、小野道風がここで生まれたと信じ、それを誇りとしてきたことは間違いなく、これこそが重要な事実です。

道風の出生地が記載されている書物地誌

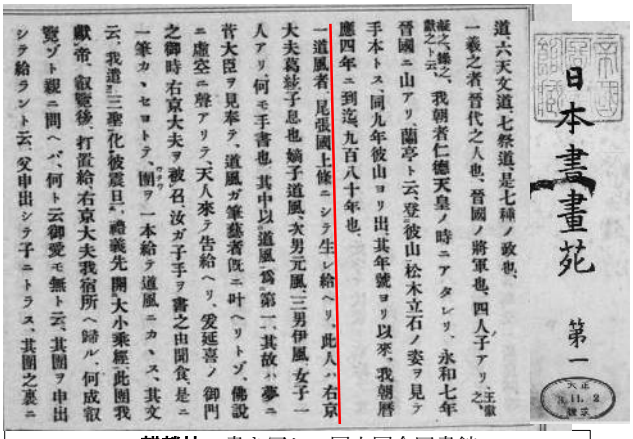
※ 上条説の根拠の無

『麒麟抄（きりんしょう）』に「道風者尾張國上條ニシテ生レ給ヘリ」としていることから、「**尾張志**」や「**尾張名所図会**」等も上条としている。

しかし、「尾張志」には「今松河戸村に道風の旧跡あり、上条は其隣村なり」とあり、また「尾張名所図会」付録には「小野朝臣道風誕生地、松河戸村にあり、当村昔は上条村のうちなりしにや云々」と言及している。

「**麒麟抄**」は書道の口伝書でもあり、中央で書かれたものであって、出身地については上条という地名の汎称を指したに過ぎないと思われている。

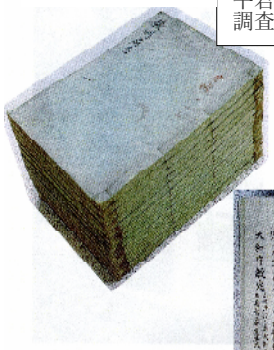
やはり遺跡地松河戸の伝承を忠実に記録した天野信景の人物史、「**塩尻**」の説が有力とされている。

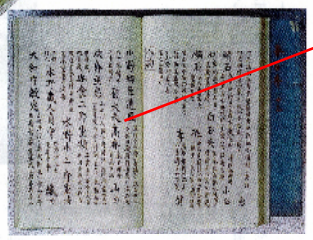


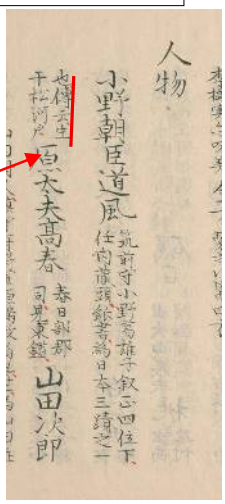
麒麟抄の書き写し　国立国会図書館
・麒麟抄巻 6「道風者尾張國上條ニシテ生レ給ヘリ」とある
・全八巻から構成されており、書法や書論の秘伝が集約されている。著者は不明で平安時代の書道家である藤原行成や空海が著したという説が有力視されていたため日本における現存最古の書論書とも言われていたが、近年の研究では否定されている　(現在、南北朝時代完成したとされている)

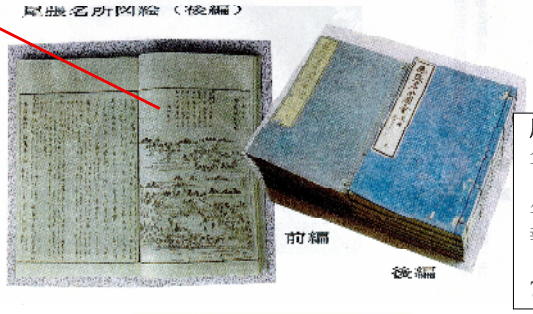
塩尻　1697～1733 執筆
小野道風を紹介した部分

張州府志
宝暦２年(1752) 尾張徳川家８代徳川宗勝は、学者の松平君山と千村伯斎を責任者として尾張全域を調査し全 30 巻・付図１巻の「張州府志」を完成させた

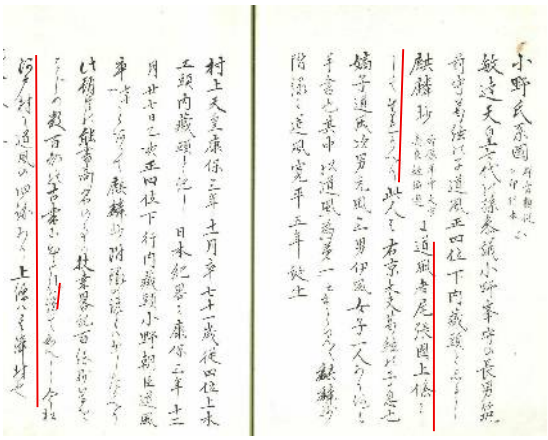








尾張名所図絵
全 13 巻。　天保 9 年（1838 年）から天保 12 年まで約 3 年をかけて執筆され、天保 15 年（1844 年）2 月に前編 7 巻が刊行された



尾張志
天保 15 年（1844）に藩命によって編纂された尾張国の地誌

松河戸文化科学探求隊隊長　長谷川　浩